

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北海道財務局長

【提出日】 平成25年2月14日

【四半期会計期間】 第73期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

【会社名】 北海電気工事株式会社

【英訳名】 Hokkai Electrical Construction Company, Incorporated

【代表者の役職氏名】 取締役社長 吉川 照一

【本店の所在の場所】 北海道札幌市白石区菊水2条1丁目8番21号

【電話番号】 札幌 011-811-9411 (代表)

【事務連絡者氏名】 理事経理部長 大西 敏

【最寄りの連絡場所】 北海道札幌市白石区菊水2条1丁目8番21号

【電話番号】 札幌 011-811-9411 (代表)

【事務連絡者氏名】 理事経理部長 大西 敏

【縦覧に供する場所】 証券会員制法人札幌証券取引所
(北海道札幌市中央区南1条西5丁目14番地の1)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第72期 第3四半期 累計期間	第73期 第3四半期 連結累計期間	第72期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (千円)	32,684,932	34,224,594	49,507,610
経常利益 (千円)	260,362	340,925	906,221
四半期(当期)純利益 (千円)	37,773	175,118	219,594
四半期包括利益又は包括利益 (千円)		153,619	265,621
純資産額 (千円)	20,221,596	20,937,743	20,920,837
総資産額 (千円)	30,736,702	34,514,516	33,862,474
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	1.96	9.07	11.37
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	65.8	60.7	61.8

回次	第72期 第3四半期 会計期間	第73期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	8.46	19.76

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 第72期連結会計年度より連結財務諸表を作成しており、第72期第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)及び第72期第3四半期連結会計期間(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)は四半期連結財務諸表を作成していないため、第72期第3四半期連結累計期間及び第72期第3四半期連結会計期間の主要な経営指標等に代えて、第72期第3四半期累計期間及び第72期第3四半期会計期間の提出会社の主要な経営指標等を記載しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、当社グループは設備工事業の単一セグメントであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の景気は、海外経済の減速などを背景として弱い動きとなりました。北海道の景気については、設備投資が製造業中心に持ち直しているものの、国内経済の影響を受け、やや足踏み感がみられました。道内建設業界においては、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の導入に伴い太陽光発電関連工事の一時的な増加が見込まれますが、依然として激しい価格競争が続いており、加えて、北海道電力株式会社の設備投資や修繕費の効率化による削減など、当社グループを取り巻く経営環境は極めて厳しい状況が続きました。

このような環境のなかで、全社をあげて営業活動を強力に展開するとともに、業務の効率化に努めた結果、次のような業績となりました。

なお、前連結会計年度より連結財務諸表を作成しており、前第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）は四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期との対比の記載はしていません。

受注高	4 5 1 億 7 2 百万円
売上高	3 4 2 億 2 4 百万円
営業利益	1 億 5 6 百万円
経常利益	3 億 4 0 百万円
四半期純利益	1 億 7 5 百万円

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、投資有価証券の減少などはあったものの、未成工事支出金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ6億52百万円増加し、345億14百万円となりました。

負債合計は、支払手形・工事未払金の減少などはあったものの、短期借入金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ6億35百万円増加し、135億76百万円となりました。

純資産合計は、利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ16百万円増加し、209億37百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.1ポイント減少し、60.7%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、特記すべき事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	19,722,027	19,722,027	札幌証券取引所	単元株式数 1,000株
計	19,722,027	19,722,027		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年12月31日		19,722,027		1,730,000		2,364,633

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日である平成24年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 420,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,078,000	19,078	
単元未満株式	普通株式 224,027		
発行済株式総数	19,722,027		
総株主の議決権		19,078	

- (注) 1 上記「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式数」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ3,000株(議決権3個)及び400株含まれております。
 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式756株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 北海電気工事株式会社	北海道札幌市白石区菊水 2条1丁目8番21号	420,000		420,000	2.13
計		420,000		420,000	2.13

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則(昭和24年建設省令第14号)」に準じて記載しております。

なお、前連結会計年度より連結財務諸表を作成しており、前第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)は四半期連結財務諸表を作成していないため、四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書に係る比較情報は記載しておりません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	4,505,918	2,828,452
受取手形・完成工事未収入金	10,717,627	10,319,061
有価証券	1,003,650	200,180
未成工事支出金	1,109,890	3,756,580
材料貯蔵品	629,792	672,457
その他	574,622	2,575,851
貸倒引当金	11,216	5,086
流動資産合計	18,530,284	20,347,495
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	3,875,550	4,349,285
その他(純額)	2,977,393	3,149,600
有形固定資産合計	6,852,944	7,498,885
無形固定資産	159,930	160,616
投資その他の資産		
投資有価証券	6,586,083	4,781,788
その他	1,748,734	1,741,230
貸倒引当金	15,504	15,501
投資その他の資産合計	8,319,314	6,507,517
固定資産合計	15,332,189	14,167,020
資産合計	33,862,474	34,514,516

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金	5,287,800	4,709,184
短期借入金	-	1,800,000
未払法人税等	396,092	169,896
未成工事受入金	600,511	756,410
工事損失引当金	-	13,021
その他	2,413,113	1,688,843
流動負債合計	8,697,518	9,137,356
固定負債		
退職給付引当金	4,058,937	4,252,728
役員退職慰労引当金	136,245	141,368
その他	48,936	45,319
固定負債合計	4,244,118	4,439,416
負債合計	12,941,636	13,576,772
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,730,000	1,730,000
資本剰余金	2,367,154	2,367,287
利益剰余金	16,590,902	16,630,887
自己株式	69,866	71,580
株主資本合計	20,618,189	20,656,594
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	302,647	281,148
その他の包括利益累計額合計	302,647	281,148
純資産合計	20,920,837	20,937,743
負債純資産合計	33,862,474	34,514,516

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
完成工事高	34,224,594
完成工事原価	32,784,358
完成工事総利益	1,440,235
販売費及び一般管理費	1,284,092
営業利益	156,143
営業外収益	
受取利息	60,081
保険配当金	68,073
その他	68,479
営業外収益合計	196,634
営業外費用	11,852
経常利益	340,925
特別利益	
固定資産売却益	1,159
投資有価証券売却益	77,974
特別利益合計	79,133
特別損失	
固定資産除却損	15,146
投資有価証券売却損	33,963
投資有価証券評価損	2,731
特別損失合計	51,842
税金等調整前四半期純利益	368,217
法人税等	193,098
少数株主損益調整前四半期純利益	175,118
四半期純利益	175,118

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	175,118
その他の包括利益	
其他有価証券評価差額金	21,498
その他の包括利益合計	21,498
四半期包括利益	153,619
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	153,619

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響額は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	398,319千円

(株主資本等関係)

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	135,133	7	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

設備工事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	9.07円
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	175,118
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	175,118
普通株式の期中平均株式数(株)	19,302,548

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月8日

北海電気工事株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 五十嵐 康彦

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 竹内 弘雄

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 香川 順

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている北海電気工事株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、北海電気工事株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。